

【談話】すべての教職員がいきいきと働き続けられる学校をつくろう
～神戸市立小学校での教員いじめ・暴行事件について～

2019年12月6日
全日本教職員組合（全教）
書記長 檀原毅也

人間としての尊厳を踏みにじる事件

神戸市立小学校における教員によるいじめ・暴行事件は、被害を受けた教員の人間としての尊厳を踏みにじり自殺寸前にまで追い込んだ、きわめて悪質で許されない事件です。また、子どもの人権を守り、お互いの違いを尊重し合い共に生きることの大切さを教え育む学校において起きた事件であり、子どもたちに計り知れない不信と不安を与えるものです。

全国の教職員から「他人事と思えない」との声が届いています。全国で深刻化している学校現場でのワハラ等の問題と地続きの事件であり、このような事件を二度と起こさないために、その背景と原因についてあきらかにし、すべての教職員がいきいきと働くことができ、どの子ども大切にされる学校をつくることが求められています。

この事件の背景にあるもの

今、多くの教職員が、「職員室で子どもの話ができない」など職場で失敗や本音を語れず、だれにも相談できない状況に追い込まれています。「ゼロ・トレランス」と言われる管理・統制や「学校スタンダード」が押しつけられるもと、子どもの成長・発達を第一に考えるのではなく、「要領よく行動できるか、できないか」で教職員の優劣が決められ、指導の不十分さを指摘され「自己責任」が問われる実態が広がっています。今回の事件においても、「クラスも学校も競い合わさねばならない」（当該校元校長）とする学校運営が、一部の「中核的」な教職員を中心としたゆがんだ関係性を生み出し、教職員の人間としての尊厳を踏みにじるという事態をつくり出したと言わざるを得ません。

その背景には、政府・文部科学省による、教職員評価制度や校長中心の学校運営の押しつけ等の教職員を分断・統制し競争に追い立てる教職員管理政策や、全国学力テスト等の競争主義的教育政策があることはあきらかです。

同時に、多くの教職員が過労死ラインすら超える異常な長時間過密労働を強いられ、余裕とゆとりをもって子どもたちと触れ合い、同僚ととりくみを交流したり悩みを相談し合う時間が奪われていることも大きな要因となっています。

政府・文部科学省に、改めて、管理と統制・競争主義的教育政策からの抜本的な転換と、教職員の長時間過密労働の解消を強く求めるものです。

事件を口実にした教育への介入はゆるされない

神戸市教育委員会がこの事件を職員間の人間関係の問題に矮小化し、事実上問題を放置し、被害者に寄り添った実効ある対応ができなかったことの責任は重大です。市教育委員会と管理職には、学校職場のあらゆるハラスメントから教職員を守る安全配慮義務があります。市教育委員会には、教職員が安心して子どもたちの教育にとりくむことができるよう、断固として教職員の人権侵害を許さず人間としての尊厳を守る立場を明確にし、あらゆるハラスメントを根絶する実効ある対策を講ずることが求められます。

神戸市議会は、今回の事件を受け、「重大な非違行為があり、起訴されるおそれがあると認められる職員」を、「公務の円滑な遂行に重大な支障が生じる恐れがある場合」に「分限休職処分」にした上で給与を差し止めることができる条例「改正」案をスピード成立させました。首長や教育長による恣意的運用を可能とするなど多くの懸念があるにもかかわらず、拙速に条例「改正」をおこなったことは重大な問題です。また、神戸市長は、この事件を口実に、市長部局への教育行政支援課の設置や教育委員会事務局への外部人材の登用の検討、社会教育部門の市長部局への移管など教育行政への介入を強めています。首長等

からの教育行政の独立性を侵し、行政による教育の管理・統制への道をひらくものです。

事件の背景や学校・教職員の置かれている実態を見ずに、「綱紀肅正」的な対応を強めるだけでは、問題の解決につながりません。首長や市議会の役割は、教育に介入するのではなく、市教育委員会や学校現場が主体的に問題解決に取り組み、すべての教職員がいきいきと働くことができ、どの子ども大切にされる学校をつくるために、教職員増や少人数学級の推進などの教育条件整備を推進することです。

子どもや父母・保護者から信頼され、すべての教職員がいきいきと働くことができる学校を

学校は、子どもたち一人ひとりに寄り添い、その声を聴き受け止め、すべての子どもたちの豊かな成長と発達を保障する場です。だからこそ、教職員がお互いの個性を認め尊重しながら協力して教育にとりくむ、民主的な教職員集団が必要です。また、子どもの声をいかし父母・保護者、地域と共同した学校づくりが求められます。

全教は、一人ひとりの子どもを大切に、すべての教職員がいきいきと働き続けられる学校をつくることを呼びかけます。

以上